

先端大が国際研究室

連携さらに強化／学生ら支援

フランスに海外初拠点

学内に米大学と共同で

生駒市高山町の奈良先端科学技術大学院大学(小笠原直毅学長)は19日、フランスのポールサバチエ大学国立科学研究センターCEMES(材料精緻化・構造研究センター)に、初の海外研究拠点となる国際共同研究室を開設したと発表した。奈良先端大内にはアメリカのカーネギーメロン大学との国際共同研究室を設置。いずれも、学生や研究者の支援、交流などの拠点機能も併せ持ち、国内の大学では珍しい取り組みという。



国際共同研究室開設を発表する奈良先端大の小笠原直毅学長(19日、生駒市高山町の同大)

文部科学省の「研究大学強化促進事業」の支援を受け、奈良先端大が取り組む「戦略的国際共同研究ネットワーク」形成プログラムの一環。CEMESとの研究室は、河合社・物質創成科学研究科教授が運営責任者を務め、研究員18人で構成。河合教授が進めてきた高感光材料の研究を基に共同研究を行う。河合教授の研究は、3D(3次元)プリンターや半導体などへの応用が期待

されている。

カーネギーメロン大学からはロボット工学の世界的権威、金出武雄教授らを招請。共同研究室では運営責任者

の小笠原司・情報科学研究科教授ら研究員約10人の体制で、画像処理技術を中心に生命化学などの他分野とも連携し、生活の質向上に関連した研究を進める。

いずれの共同研究室も、設置期間は平成30年3月末まで。研究成果の特許申請権など、知的財産は両者で所有する。小笠原学長は

「これを機に海外の大学、研究機関との連携をより一層強化し、「努めたい」として、本学の研究力強化に努めたい」として、